

令和6年2月11日(日)

第6回リニア発生土置き場計画審議会 資料No.4

## 事前意見の取りまとめ結果

### ○JR 東海の置き場計画を受け入れ、協力しながら保全する

- ・盛土計画自体に反対はしないが、より安全にしてほしい。
- ・候補地 B は現状のまま保全すべき。候補地 A については JR 東海の判断となるが、ハナノキ群生地は回避を期待したい。
- ・想定課題や制約条件から実現可能性がない答申はふさわしくない。
- ・健全土はパターン化せず、条件付きで認め、要対策土を持ち出すことによる減量分を保全区域の拡大に使い、高度な保全策を求めるべき。
- ・JR 東海と町、地元、有識者が関わる湿地保全の仕組みを作ればよい。
- ・候補地 A、B ともに環境の保全、地域の安心からは回避を願いたい、健全土の入る代替地や搬入可能量を検討しながら候補地 A は、やむを得ない。
- ・環境保全のために JR 東海に基金出資の協力を求めるとよい。
- ・候補地 A、B ともに受入れを承認する。受入れを拒否するなら、代替案の提案が必要である。要対策土分が減少するため、最大限工夫して希少性の高いエリアを可能な限り、保全に努めてもらいたい。
- ・JR 東海の保全への協力が得られないのはマイナスである。
- ・候補地 A は盛土を認め、要対策土の持ち出しによる減量で希少種の多い候補地 B の斜面部を避けて、残りは盛土をしてもよい。
- ・候補地 B のため池跡は、盛土した方が安定する。それでも搬入できる盛り土場が不足する場合は、別途、問題は考えられるが他で検討すべき。

### ○JR 東海の置き場計画は受け入れられない

- ・町民にとって残土受入れのメリットがない。
- ・保全活動は JR 東海に支援を求めるよりも地元自治会や地域住民に関わってもらうべき
- ・まずは貴重な自然環境を保全する立場で交渉すべき
- ・JR 東海から自然環境への悪影響と評価が具体的、客観的に明示されていない。
- ・代替地の検討も含め、地域との対話を重ね、持続可能な解決策を見つけるべき
- ・重要湿地、希少動植物の保護が不可能であり、保全を両立できない。
- ・生態系を破壊する計画であり、この場所をなぜ「適地」と判断するのか説明が必要
- ・一部であっても消失すれば湿地生態系が健全な状態で持続しない。一体的に保全することが望ましい。
- ・置き場を造る利益と生物多様性の保全ロスを比較してロスが上回る。
- ・JR 東海と町に責務を考慮した積極的な行動を願いたい。